

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

IS イタズラ神の二度目の人生

【作者名】

解読

【あらすじ】

にじファンでは解読不可能でやらせていただいた者です

イタズラ好きの神様が最後を迎え新たに生を得た

そこは女尊男卑に向かっていた世界だった

そのなか、友のため、大切な人のために、イタズラに命を懸け他者に笑顔を！

そんな、元神様が珍道中

ご都合主義になると思います

更新は遅くなります

ハーレム つたない文ですが生暖かく見守ってください

プロローグ

「グフツ……っはぁ……はぁ……これでおわりか」

荒れ爛れた場所

幾万も積まれた異形と人型の骸

その中心に、佇む女と地に伏した死に体の男

「……何故？」

「何故があゝ……あいつがっ……殺されたから……かな」

男は空

見てワラワ

「なぜッ？」

「復讐が果たせた上に……姉弟に止めてもらったからかな」

男は笑みを深め女とその先に広がる虚空をみつめる

「……ッ」

「泣くなよ〜兄妹　ングツ……ハア〜……こっちまで悲しくなっちゃ
うじゃん」

side 男

あゝないちゃったよ

こうなるかも知れない可能性は、考えてたんだけどね
神と言えど憎しみは乗り越えることは、出来なかったよ
君も愛する人を殺されたらわかるよ、この気持ちは

あゝでも辛いな

キョウダイの泣く姿は初見か

・・・そう考えたら少し嬉しいかも
どうしたら、泣き止まることが出来るかな

手品をする力も

イタズラする力もないや

さてどうしようかな

side out

女は武器(エモノ)をその手から落とし、男に近づく

その足取りは重く

僅かな歩数は遠く(ながく)、僅かな時間も永く(とあく)

現実には僅か数歩、僅か数

選択の余地すらなかった現実に、絶望(なみだ)し、夢見ていた現実(りそつ)は儚く散

りは

求めていた人(ひと)は、己の手で貫き、その炎(い)は消えかけていた。

女は涙を流し

その血(あま)で濡れた両手を見つめ、過去(むかし)を想い出す。

side 女

コイツと出逢ったのは、数百年も前のとある丘の、とある夕暮れ時

の緑の閃光が綺麗な時だった。

出逢いは最悪と言って良いかもしれない。

開口一番が「女の子？」だったからな。

今思い出したら少し笑えるな

アイツのキョトン顔は最初で最期だったかも知れない

なんせアイツは、驚かされるより驚かす奴だったからな

私も何度となく驚かされたよ

だがアイツがいれば、いつも誰かが笑っていた

誰かにイタズラをし、されたものが怒りその瞬間に笑いが起きた

アイツが捕まってじゃれあいじゃれあいが起きた時にも笑いが起きた

全ては計算の上での行動らしい

アイツが自ら言っていたからな

今はそれすらも聴ける状況じゃないがな

全ては・・・すべては我らの愚かさが招いた結果だ

巨人族との確執が争いと憎しみを生み

それが、積み重なり

怒りを生み、更なる憎しみを生んだ

争いは、僅かな歪みから戦争になった。

私が少し考えれば回避出来たのに、見ないようにした。

・・・見たくなかった

愛した男が敵に盗られたのが

見て見ぬ振りした結果がこれか、笑い物だな

side out

「なあ・・・オーディン」

男が問う

「ッなんだ・・・ロキ」

女が聴く

「・・・ありがとう」

最後の力を使い手を出す

「・・・ッどついたしまして」

力なく手を出し笑う

男はその顔えがおを見て満足そうにして逝った

「あああああああああ!!」

その後に残るのは、

悲しみ
涙と咆哮あはれ

いきなりですが、捕まっています

「ん〜!!」

隣では親友が猿轡？的なナニかを噛まされている。

かくいう僕も噛まされています。

ああ、初めまして僕の名前は『I北神 真琴《きたがみ まこと》』です。

何故こうなったのか、時間を数十分？もしかしたら数時間前まで遡る

捕まる少し前 ホテル

Side Makoto

「いやあ〜、ちーねえちゃんはすごいよね！」

「当たり前だろ！何たって千冬姉なんだからな!!」

今僕たちは、ドイツで行われている第2回モンドグロツソをちーねえちゃんに招待されたので見にきました

で、昨日準決勝を見てたんですが、ちーねえちゃんがすごいすごい
こーびゅーっん、てきてずばっとしてビーって音がして何が何だか
分かんなかったよbよー一般人

僕は元神様だからわかったよ

嘘じゃないよ！ほんとうだよ!!

「真琴」

「なにかな？いつくん」

「今から俺達だけで行かないか？」

「会場に？」

「おう！」

「でも、あの人たちはどうする？」

「どうにかする！」

と言う会話の後どうにかこうにかSP?の方々を巻いて会場に向かっています

僕もいつくんもドイツ語なんて読むことは出来ないけど会場まで一直線だから迷う心配がないから安心だね

「なあ、真琴」

「なあに？いつくん」

「俺たち、道間違ってないよな」

「うん、会場までは一直線だからね」

「大人がいないと少し怖いな」

「僕がついてるからモーマンタイさ!!」

いつくんの事はこの僕が、守りぬくから大丈夫

Side out

外見は二人とも子ども

しかも片方の子どもは、第^織1回^斑モンドグロツソ^千優勝者^冬の弟である

世の中善い人ばかりではない

事前に計画されていた悪事なら

警護されている子どもの誘拐を計画していた悪人からしてみたら

今の2人は格好の獲物だろう

片方の子どもはおまけだが

「ねえ、オリムラ イチカ君？」

「俺ですけど・・・」

「・・・いつくん、そこで答えちゃうんだ」

「・・・ニヤッ」

「??」

「(いやな予感)」

ドスツ・・・パタッ

二人の意識は刈り取られ冒頭に戻る

回想？終了

「一人が捕まっているどころか

「ん〜(さてどうしたものか)」

「ねえ、捕まえてきた男の娘の方たべちゃだめ？」

「ターゲットのおまけ？」

「そうそう ああいう子、好みなのよ」

「はあ〜シヨタコンめ」

「なんとも言いなさい。男の娘の鳴き顔は最高に濡れるんだから

「

「・・・まあ、ターゲットじゃないのなら大丈夫じゃない」

「やった じゃ持って行くね」

痴女が 真琴 シヨタに近づくと

その手をワキワキさせ、更には口からよだれを垂れ流しながら

「ん—————!!(真琴おおお!!)」

「んふうzzzz」

どうしようか考えすぎて爆睡

肩に担がれ、別の場所に連れて行かれる

「ん—————!!(まあ「おおおおおおお!!)」

シヨ真ヲ琴を担ぐ 女痴女の姿はとてもウキウキしている

Side Makoto

「・・・きて・・・おきて」

「ん〜？」

「起きて」

「あれえ？」

猿轡？は外されてるし、ベットの上だし、目の前に女の人いるし・・・
あうれえ〜？

「ねえねえ？君ってチェリーボーイ？」

「(。(」

「・・・知らないのね」

何で口元を手で抑えてるんだろ？
まあでもこれなら、いつくんの事もどうにか出来るかな？

「おねえちゃん(」

「なあ〜に？」

「目にゴミが入ったみたいだから見てくれない」(泣)

「いいわよ (このままキスまで その後は・・・ウフフッ)」

今寒気が

大丈夫がこのままいって

「診せてみて」

「うん」

今だ

「あれ？」

「僕が手を叩いたらあなたは反乱を起こします。あ、いっくん・・・織斑一夏の場所を教えてね」

「わかりました。オリムライチカの場所はこの部屋を出て右手に向かい突き当たりを左の部屋にいます。」

「ありがとうー」パチン

さて、これでいっくんを助け出す・・・あっこれ僕も逃げないと行けないのか

まあいっくん逃がしてからで良いか

さて、れつつすにーきんぐ

「くそっなんで裏切りが・・・」

それは僕のせいです

と、敵さんが反乱を納めに行ってる間に

ガチャ

「はろはろ〜 大丈夫？ いっくん」

「ん〜」

「今はずすから待っててね〜」

「ぷはっ！ 大丈夫だったか真琴!!」

「モーマンタイさ!!」

ガチャガチャ

っと、いっくんの手枷足枷を外してっと

「さあいっくん逃げようか」

「おっ」

いっくんのを握り

ちてこれから無事脱出

「どに行こうって思ってるのかしら」

あつやバい、これって絶対絶命

初日

「う〜」(「・」)「にゃー!」(「・」)「／」(「・」)「／」

うにゃ、とても懐かしい夢を見たな

あの事件からもう五年たったのか時が流れるのは早いね

絶体絶命の後色々ありました

秘密を明かしたり、ちーねえちゃんに殺されかけたり色々ありました。

ほんと、色々ありました(ー)

「……………」(「・」)

「……………」

……いつくん後で覚えてる

にしてもお嬢さんが多いよね

38:2

通分して

19:1

しかたないかな

なんせ此処はIS学園だからね

お嬢さんが多いと言っより、男が本当は「いない」はずだもんね

この学園に入学するキッカケを作ったのは、Mr・唐変木だからね
なにが、「次に見つけたドアを開けるぞ。それでだいたい正解なん

だ!」だ

そもそも藍越学園とIS学園を見間違えたんだろ

* 真琴君は一夏君の背中で寝ていた事は、棚に上げてます

「うわっ！」

「きがるにまじってよんでくだしゃい」

「「「「「ぶはっ」「」」」」」

「くう」

「うわっ！！」

上から

愛の吹き出た女生徒&山田先生

耐えきつた織斑千冬&篠ノ之箒

慣れきっている織斑一夏

「ブフッ、男の娘ね・・・サイコーだわ」

「フッ、本当に同じ年齢ですよ！」

「フゴッ・・・織斑君×真琴君・・・今年は熱いわ!!」

マトモな反応が一つしかない

ただ皆愛が流れているので、ただただ危ない人たちである

キーンコーンカーンコーン

チャイムがなった

「これでS H Rは終わりだ。諸君等にはこれからISの基礎知識ショートホームルームを半月で覚えてもらおう。

その後実習だが、基本動作も半月で体に染み込ませる。いいか、いいなら返事をしろ。良くななくても返事をしろ。

後今机等汚したものは、休み時間中にきれいにしておくように。遅れた者には罰則があるので遅れないように」

パンパン

手を叩き、しばしの休息の時間となる

我らが主人公の真琴君は、また夢の中へと旅だった
愛を流した者^{女性}たちは、清掃の為に走りだす

そんなこんなで、授業終わりの休み時間

Side Makoto

むふ

終わった終わった

一時限目はISの基礎理論授業だったけど、たーねえちゃんのIS造りを手伝ったことあるからユーユー

いっくんはのたれてるねえ

ざまあゝみる

さあ、次の授業はなにな

レア者の男子を見に来たor話そうとしてきた女性陣は見えていない真琴君であった

「真琴少し良いか？」

「うん？」

「……くっ！」

「ほーちゃん？」

「……」

ほーちゃんだよ！ほーちゃん！！

あのほーちゃんですよ！！

凜として、メツチャカツコキレイになってますよ！！

身長も大きくなって、僕より大きく・・・おお・・・き・・・く

「(T T)」

「ど、どうした!!」

「うう、まけたあゝ前までは同じ位だったのに!」() () ()

(* ノ ノ)

「ま、待てー!」

「はなしてよお！保健室で不貞寝するんだあ!!」

「やべえ！千冬姉にバレたら首が飛ぶぞ」

くそお、羽交い締めにしやがってえゝ

足が着かないじゃないか

・・・くそお!!

「と、とりあえず屋上に行くか」

「見つかる前に行こう」

少年少女移動中

「えぐっ・・・えぐっ・・・」

「そ、そのすまない」

「謝るなよぉ」

「よしよし」

「去ね！いつくん!!」

「ぐはっ」

変にニヤニヤしながら慰めやがって、そのまま寝てる

「え」

「グスン・・・久しぶり、ほーちゃん」

「あ、ああ」

「見たらあゝグスツ、ほーちゃんだってえゝエグツ、すぐわかったよぉ」

「・・・よく覚えているものだな」

「大切な^{家族}人の事はわすれないよ」

「そ、そうか／＼／＼」

キーンコーンカーンコーン

チャイムが鳴っちゃった

「ほーちゃん戻ろっか」

「そうだな／＼／＼」

ぎゅ

「??」

「久々にいいだろ／＼」

「いいよー」

「ふふっ」

なんか忘れてる気がするけど、ほーちゃんが笑顔だし良いか
ほくほくするお

バシィィィン

ペン

「~~~~~」

「あっ」

あう、叩かれた

音が違う気がするけど良いか

「その手・・・オホン、席に着けバカども」

「はーっ」

「? 織斑は?」

「あっ」

「屋上に忘れてきちゃいました」

忘れ物っていつくんの事が
スッキリスッキリ

「山田君、授業の方を少し頼む」

「わかりました。織斑先生」

いつくん南無

この後、とある男子生徒の叫び声が聞こえたとか聞こえなかったとか

(シバくわよー！真琴!!)

はっ！

今、電波と寒気が(((。 。 。)))
いっくんを献上するか

「先生！」

「はい、織斑君！」

勢的にどっちか先生かわからないにや

「ほとんどわかりません！」

自信満々に立って宣言する事じゃないよそれ(。ー、(ノ

「全部……ですか？」

ほら、デカメ「……山田先生も困惑してるジャマイカ

「えーっと、織斑君以外で今の時点でわからない所がある人は手を挙げてください」

デカm……山田先生こっちを見ながら言わないで
僕、モーマンタイだから！

「北神くんは大丈夫ですか？」

「問題ないでしゅー！」(キリッ

「……フブッ」

「皆、鼻を押さえてどろじたの？」

「なんで、ちーねえちゃんとはーちゃんはそんな優しい目でこっち見てるの？」

「かんでないんだからね！」

「背伸びもしてないんだからね!!」

「裏切ったな！真琴!!」

「じゃんじょじょ?」

「一緒にしよつって言ったじゃないか!!」

「(勉強)したじゃないか、2時間くらい」

「ケバラッ!!」

「うおっ!」「うにゃ!」

「おお、血の池ができた」

「皆、大丈夫かによ?」

「.....」

「すごい速度で首肯してるけど首は大丈夫かな?」

「.....織斑、入学前の参考書は読んだか?」

「古い電話帳と間違えて捨てました!」

ズバンッ

「あべし」

うう〜

いたそ〜

「必須と書いてあっただろつが馬鹿者。後で再発行してやるから一週間で覚える。いいな」

拳王がいる

ラ ウがいるぞお!!

「い、一週間であの分厚さはちょっと・・・」

そうだ

拳王の軋轢になんて負けるな!

勝て勝つんだいっくん!!

「やれと言ってる」

「・・・イエス・ボス」

ズバンッ

いっく〜ん!

「ISはその機動性、攻撃力、制圧力と過去の兵器を遙かに凌ぐ。そう言った『兵器』を深く知らずに扱えば必ず事故が起きる。そうしないための基礎知識と訓練だ。理解できなくても覚える。そして守れ。規則とはそういうものだ。」

む〜

「ハイッ」

「なんだ？北神」

「ISは『兵器』じゃなくて夢の詰まったものですよ！」

「北神……たしかに北神の言う通りISとは本来『兵器』としてでなく、人類の宇宙活動を想定したものだ、各国が通常兵器のほとんどを撤廃し、軍部にIS部隊を『自国防衛』のために使用してしまった。しかも、本来の目的である宇宙進出はほとんど進んでいない。現状ではISは『兵器』として扱われている。このような事実を打破できる者が現れたら話は変わるだろうが……。」

「……」

む〜

がんばって宇宙進出の為にシャトルだとかコロニーだとか作らないといけないって事かあ〜
がんばらないと

そんなこんなで授業は終わって休み時間

「ちよっぴ、よろしく〜」

「うみゅっ」「へっ？」

おお、ドリルだ！

漢の夢の1つのドリルが目の前！！

「何ですか！このキラキラした目はっ！（おほん、訊いてます？お返事はっ）」

「ふおお〜」（ ）

「おお、訊いてるけど・・・どんな用件だ」

「この小動物はなんですか!!）なんなんですそのお返事は、わたくしに話しかけられているだけで光栄なのですから、それ相応の態度が、あるんじゃないかって！」

「うおー！」

「ドリルがあー！ドリルがああ!!」

「……………」

「このドリル触回転させてつていいですか？

回してもいいですか!!

だめだって!?!?

くそお、目の前に夢シムロがあるのに触れることもできないなんて・・・なんて拷問なんだあ〜〜〜!!

「……………真琴ー！」

「あじゃ?」（ ）メ（ ）

「お、おお、す、すまんが代表候補生つてなんだ」

「ああ、分かれお。国家代表の候補生だお。ちーねえちゃんの一個下のランクだお」

「おおお、す、すまなかつたな。」

こちとら、ドリルに夢中なんだよ!!

このドリルはどんな風に回転まわするのだろうか。

想像しただけで、ぐへへっ、よだれがとまんねーぜ!

キーンコーンカーンコーン

チャイム・・・だと

ああ、ドリルがあゝ

漢の夢ロマンが向こうにいゝ

「・・・へっ」

今度こそ、クラス代表??

「再来週行われる、クラス対抗戦に出る代表者を決めないといけないな」

くらすたいこうせん?

もしかしていいんちゃんみないな感じの人のこと??

「難しく考えなくていい。クラス対抗戦に選ばれる^{イコール}クラス代表…つまり他の学校で言うクラス委員長だ。ちなみにクラス対抗戦とは、入学時での各クラスの実力差を測るものだ。今の時点ではたいした差はないが、競争する事により向上心が生まれる。それによって、IS操縦の技術や意識向上をはかるうとしてしているわけだ。ああついでに、クラス代表に選ばれると一年間は変更はないので心してくれ。」

はこやゝ、なるほど

それはとてもとても面倒くさいって事だにや

そのようなことは、いっくんに押しつけるのが吉だにや!

「はいっ! 織斑君を推薦します!!」

早速いっくんに清き一票が入ったにや!

このまま、皆いっくんに投票するのにや!!

いっくんの、キョトン顔が最高!!

「私もそれがいいと思います」

更に票が入ったにや!

このまま逝けば確実にや!!

「じゃあ、私は北神君を推薦します」

よしよし北神にも・・・

「は「じゃっ!?!?」

「「「「ばぶあっ」

「じゃっ!にやんで僕にも飛び火してりゆの!!

「・・・・・・でわ、候補者は北神真琴と織斑一夏の二名・・・他にいないか?自薦、他薦どちらでもかまわないぞ」

「お、俺」

「「「「じゃっといくいきましえん!!」

かんだけど今はそれどころじゃ

「「「「たわばっ!」

「(真琴め必死だな。・・・そこが良い!!)・・・織斑。席に着け、邪魔だ。北神はにやっといくも納得もなにもない。それが推薦された者の定めだ。」

「そんなめんど・・・大役はいつく・・・織斑君の方が適任だと思えます!!」

「ちょっと待った!俺はそんなのやりたくないし、真琴は本音出し過ぎー」

「自薦他薦は問わないと言った。他薦された者に拒否権はない。それが定めと思い覚悟を決める。」

どつすればこの危機g

「待ってください。納得がいきませんわ!」

おお!ドリルがたった!!) (

定めなんてそのドリルで、突き抜いてえ〜!ゞ) (

「そのような選出認められません!大体男がクラス代表なんて、良い恥曝しですわ!わたくしに、このセシリア・オルコットにそのような屈辱を一年間味わえとおっしゃるのですか!?!」

ああ!

ドリルだからって何でも言っつて良いと思っつなよ!

「実力からいけばわたくしがクラス代表になるのは必然。それを、物珍しいからと言っつ理由で極東の猿にされては困ります!わたくしは、このような島国までIS技術の修練にきたのであつて、サーカスをするつもりなんて毛頭ございませんわ!」

・・・猿だつて、僕はどれかつて言っつと犬だ!

「クラス代表は実力トップがなるべき、そしてそれはわたくしですわ!」

ちーねえちゃんを倒せるのかあ?) (

やれるもんならやつて見るよ〜) (ー、) (ノ

「大体、文化としても後進的な国で暮らさないといけないこと自体、わ

「やっつてやるっじゃないか！」

「フシャーー！」

「ひっー！」

「……奴隷だと真琴は私のものだ！」

「(真琴は誰にも譲らん！)」

セシリアに殺気が向けられていたことは向けられた本人と向けた
当人達しか知らない

部屋割りですよ

S i d e M a k o t o

あの奴隷にします宣言のあとちーねえちゃんが凜々しくまとめてくれました。

決闘は一週間後に決まったお！

セシリア氏以外は、織斑千冬の目が凜々しい理由は気づけない。正確には凜々しいではなく、殺気を一点集中させているからである。

「うっ……」

放課後いつくんは絶望していた（、）

「わか……らん」

「なん……だとお（9 m）（）

「……くそおおお！」

ふははっ

苦しむがいい

僕の事を笑ったんだ

存分にくるしめえい!!

笑ったのは題『初日』にて

「ああ、お二人とも、まだ教室にいたんですね。よかったです。」

デカメロン先生だ

・・・メロンばかりに栄養やってるかと思ったたら僕より身長高いじゃないか

くそっ、これだから童顔は

人の事はいえない。童顔で身長は150もない真琴であった。

「えっとですね。お二人の部屋割りが決まりました！」

はる？

僕たちの入学は突然だから、部屋なんてないわ。ボケっって感じで、「一週間は自宅から通えよ」みたいな雰囲気出してたのに、これいかに。

「俺たちの部屋決まってないんじゃないですか？前に聞いた話だと一週間は自宅から通学してもらって話でしたけど」

いっくん、言葉にしてくれてありがとう

「そうなんですけど、事情が事情なので一時的な措置として部屋割りを無理矢理変えたんです。」

もしや、政府か何かのいんぶ・・・!?

いっくんに対してのハーニートラップ!?

・・・そんな事はないか(´・`・´) = ッア

どうせ、『男のIS操縦者』だから、どこの国にも帰属してないアーンドどこの国や機関に干渉されないIS学園での保護が目的かなあ
く?

その事実は、政治家が知っている!!

「一ヶ月もすれば個別の部屋が用意されるので、それまでは相部屋で我慢してください。」

ん？

「真耶せんせえ、質問いいですか？」

「(名前呼び!!／／)なんですか？北神君」

「その、言い方だと僕と織斑君が別の部屋っていつてるみたんですが??」

「それに、俺たちの荷物は一回家に帰って取ってくるって事でいいですか？」

「え、え〜っと」

「荷物なら私が手配してやった、ありがたく思え。ついでに北神と織斑は別の部屋だ」

おお、ちーねえちゃんの登場だ！

さつきまで、授業受けてたけどやっぱりかっこいいよね

「ど、どつもありがとつございます・・・」

「織斑の方は生活必需品だけだな。着替えと、携帯の充電器があればいいだろう。北神の方はお前の姉に連絡して送ってもらった。なに入っているかは自分で確認しろ。」

え？姉が動いたの？

それに、ここ通すのにチェックはなしですか？

イヤな予感しかない(((。。。。)))

「じゃあ、時間を見て部屋にいつてくださいね。寄り道はいけませんよ。夕飯は六時から七時、寮の一年生用食堂で取ってください。ちなみに各部屋にシャワーがありますけど、大浴場もあります。学年ごとに使える時間は決まっていますが・・・えっと、今のところお二人は使えません」

まあそりゃそうだ

「え、なんでですか？」

「いっくんよ。君は女の子と一緒に風呂でむふふっイベントを起こしたいと」

「お、織斑君そんなのダメですよ！」

「い、いや入りたくないです！」

ホモオ

「女の子に興味がないんですか!? そ、それはそれでだめなような・・・」

「(、(、(」

「織斑・・・北神をそんな目で見るなよ」

にゅふふ

地獄を味わつと良い

「織斑君、男にしか興味ないのかしら？」

「それはそれで・・・いい!!」

「中学校時代の交友関係を洗って！すぐにね！明後日までに裏付け取って!!」

「まあ、近くにあんな男北神君の娘がいれば女の子なんて・・・」

最後の人が、僕を巻き込まないで！
それダメなパターンだから!!

「俺は女の子が好きだ!」

「」(。 。)」

うあーやっちゃったよWWW
救いようないなこれWWW

「チャンスは・・・あった!」

「お母さん産んでくれてありがとう!!」

「この瞬間この瞬間を待っていたんだ!!」

別の所が救われた・・・だとう

「じゃ、じゃあ私は会議があるので、これで。お二人とも寄り道しちゃダメですよ！織斑は北神君を・・・その・・・しちゃダメですからね!!」

「爆弾を置いていかないでください!!!」

さすが、真耶せんせえ。

初夜 エロくはなくななくななくななくな
いよ

前回のあらすじ^{まとめ}

ちーねえちゃんと同じ部屋に決まりました・・・以外略

あらすじ^{まとめ}終了

「まじや〜?」

おつふ

なんか魔の巣窟につれていかれてる気がする

「何か失礼な事を考えてないか?」

「そ、そんなことないにや〜?」

でもでも、ちーねえちゃんの家事能力って確か大炎上してなかった?
?

そのせいで、僕といっくんの奥様スキルが上がったような気がする
んだけど〜

ま、まあ一人暮らし?だし

だ、大丈夫だよねえ〜(((。・。)))

「真琴、失礼な事を考えていただろ」

「そ、そんなこと」ダキッ

「じゃ、じゃにを!!」

「お仕置きだ」

くそぉ、また羽交い締め_にされてるよ
足が着かない) T T ()
あと……

「//////////」

「どうした?真琴」()

「む、胸え……」()

「胸がどうした?」()

「あたってらう」()

「ふふっ、当てているんだ」()

「なん……だと」Orz

羽交い締め_にされてるから、Orzできないけどねえ!!
気持ち_{こんな感じ}はOrzだよ!!
なんで当ててるんだよ) T T ()

「はなせよぉ」

「ダメだ……お仕置きだと言っただろ」

「・・・」

勝てる気がしない) T T ()
・・・唯一の救いは、ここまであんな運ばれ方をされたのを見られ
ていないことか

・・・) T T ()

「どうした？泣いたりして??」

「ちーねえちゃんのせいだよ!!」

「そうか・・・じゃあ慰めてやるっ」

「^が」
「^{おー}」

「ふふっ」「ナデナデ

そんな事でこの僕が堕ちるとでも!!

「・・・」「ナデナデ

くっ少しはやるようだな！
だがしかし

「・・・」「ナデナデ

あっ、そこは

「・・・」「ナデナデ

ち、ちめ

「そんなのメっです!!」

「仕方ない。今度の機会にするか・・・」

「今度の機会もありません!!」

ちーねえちゃんってこんな人だっけ？

もっと凜々しくて、かっこよかったと思うんだけど・・・

「風呂に入ってくるからその間につまみを作っていてくれ」

「ん？風呂上がりに飲むの？」

「ここ最近忙しかったからな」

忙しかったのは、部屋をきれいにしていたからである

「ん。わかったあ〜」

「おいしいのを任せたぞ」

まかせんしゃいー!

お風呂上がりを計算してっと
ちよちよいのちよい〜っと

・・・
・・・
・・・

ガチャ

「上がったぞ」

「ん〜。できてるよぉ〜」

今回の出来もなかなか良いモノができた

「真琴、お前も風呂に入ったらどうだ？」

「ん〜。そうする〜」

ノロノロ ガチャ

Side chifuyu

さて、真琴は入ったか

さつきも、割と攻めたつもりだが少し足りなかったみたいだし、酒の力でも借りるとするか。

にしても、真琴の料理はうまいな。

Side out

ガチャ

ふー、スッキリしたあ〜！

「上がったよぉ〜」

「ん〜、なことが」

「・・・」

なんで、そんなに酔ってるの？

「ろっした〜、まじとま〜」

なんで、そんなに目がトロンとしてるの？

「ん〜？」

なんで、そんなにブカブカなカッターシャツ着てるの？

「ん〜」

なんで、そんなにジリジリ近寄ってくるの？

シュツ ダキツ バサツ

効果音の説明

シュツ 千冬高速移動の音

ダキツ 真琴が捕まった音

バサツ bed In

「??」

なんで、こんなにちーねえちゃんの顔がちかいの？

「んっ」「っん」

「??」

なんで、こんなに唇に柔らかい……っん？

設定

名前

北神^{きたがみ}
真琴^{まこと}

身長

139cm

体重

30kg

血液型

AB型

年齢

15歳

誕生日

6月9日

見た目

一言で言うと子供

髪の毛の長さは、肩にかかるぐらい

目の色は右が黒、左が赤

左目には切り傷アリ（近くでみないとわからない程度）

この傷は誘拐事件の際につきました

能力etc

ルーン文字（作者の自己解釈入ります）

左目の魔眼（幻覚作用）

身体能力は高いが身長のせいで下の上ぐらい

頭脳は天災の少し下ぐらい

性格

基本的に周りの人に笑顔を、の元に行動します

家族や大切な人の事をとても大切にす

身長の方はタブー、このことに触れると暴れる（泣く）

犬好きだが、なぜか猫属性

ISについてはお話の登場してから書きます